

平成31年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立高知若草特別支援学校

<p>《高知県の教育の基本理念》</p>	<p>(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2) 郷土への愛着と誇りをもち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材</p>	<p>《目指すべき姿》</p>	<p>学校像 ○児童生徒が自己実現を達成できる学校 ○保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校 ○地域になくてはならない存在として愛される学校 ○教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校</p>	<p>目指すべき姿の概要に</p>	<p>学校経営の大きな4本柱として、I 教育課程の改善、II 主体的・対話的・深い学びの推進、III 文化・芸術・スポーツの振興、IV 働きやすくやりがいのある職場の実現に取り組む。肢体不自由の特別支援学校として、専門家と連携した教育を進めるとともに、南海トラフ地震対応や、日常的な医療的ケア、日々の指導・支援において安心・安全な学校づくりを進める。 また、地域に必要な学校とされるために、交通安全指導(旗振り)、地域清掃等に積極的に取り組むとともに、福祉避難所の開設を想定した地域との合同避難訓練を実施し、共助の関係を構築する。</p>
<p>《取組の方向性》</p>	<p>①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域との連携・協働</p>	<p>児童生徒像</p>	<p>○何事にも主体的、意欲的に取り組む児童生徒</p>	<p></p>	<p></p>

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
<p>専門性の向上</p>	<p>教育課程の改善 ○教科の内容を重視した指導の一層の充実と評価の改善 ○教科別指導や合わせた指導の改善・充実を図る。 ○個別の指導計画における評価から指導の充実へのサイクルを確立する。 ○通知表の在り方について見直しを図る。</p>	<p>○教諭に加えて、期限付講師も含めて全員が年1回は公開授業を行う。併せて、その授業を基に実践事例を作成する。(100%) ○個別の指導計画の様式と連動しながら、通知表の様式を検討する。特命チーム(管理職、各学部主事、教務、研究、進路、自立活動)を立ち上げ、12月中に新様式を完成する。</p>	<p>■実践事例集の活用 ・活用により教員の困り感の軽減 ・活用により教員の授業力の向上 ・新たな実践の蓄積 ■新教育課程の編成 ・I 類型:教科の時間増 ・II 類型:教科の目標、内容を重視した指導形態の検討 ・III 類型:当該学年の目標達成、内容習得を目指す(必要に応じて前学年・前学部の内容を復習) ・教育課程検討委員会の実施</p>	<p>C ○公開授業実施率49%(25/51)。11月中旬に全員実施予定。 ○管理職は可能な限り研究協議に参加しアドバイスをを行う。 ○教員が「教育課程改善の視点確認シート」による振り返りを行い、明らかになった課題へ対応する。 ○振り返りて明らかになった課題へ対応する。 ○1学期の教育課程検討委員会6回実施し、個別の指導計画、通知表、指導要録を連動させた様式検討中。</p>	<p>A ○公開授業の進捗管理表に研究協議日などを追加。 ○管理職は可能な限り研究協議に参加しアドバイスをを行う。 ○振り返りて明らかになった課題へ対応する。 ○1学期の教育課程検討委員会6回実施し、個別の指導計画、通知表、指導要録を連動させた様式検討中。 ○個別の指導計画等の様式の検討を行い11月中に様式とマニュアルを作成する。</p>	<p>A ○全教員が公開授業を実施し授業改善に取り組むことで、指導内容の系統性、教科間の内容の関連性や学習形態等の、教育課程を見直すための視点が明確になり、課題を捉えやすくなった。 ○「教育課程改善シート」を使用した教育課程の見直しを行ったことで、次年度教育課程編成の根拠が明確になり具体的な改善点が明らかになった。 ○指導と評価の一体化・充実を目的とした個別の指導計画(通知表)の様式の改善を、本分校共通に取り組んだ。本年度3学期からの使用をスタートさせ、活用と充実をめざしている。 ●授業改善を教育課程改善へとつなげるために、単元計画や年間の単元配列に児童生徒の資質・能力を育成する視点での検討が課題である。 *公開授業実施率100%(52/52:ビデオによる公開授業を含む) *実践事例集作成(48事例)</p>	<p>A ・高い目標で、具体的に達成されている。</p>	<p>授業改善を教育課程の改善につなげ、よりよい教育課程を編成する。 ①個別の指導計画の新様式を活用した指導と評価のPDCAサイクルを確立する。 ②児童生徒の実態に応じた年間指導計画や単元計画表の作成を進め、教育課程の振り返りにつなげる。 ③授業づくりのPDCAサイクルを徹底し、主対深の視点での授業改善を一層推進する。</p>
<p>学校設定項目</p>	<p>主体的・対話的推進 ○「主体的な学び」と対話的な学びの推進、「深い学び」の追求 ○「主体的に対話的な深い学びの視点での授業改善シート」の改善・充実を図る。 ○ユニバーサルデザイン、高知県授業づくりBasicガイドブックに基づき授業改善を図る。</p>	<p>○III 類型生徒の満足度(学校評価で、「授業が分かるか」について、「そう思う」回答)70%(H30:68.4%)以上。 ○公開授業での「主体的に対話的な深い学びの視点での授業改善シート」活用率100% ○授業における「育成を目指す資質・能力(=評価の3観点)」を検証する。 ・知識・技能 ・思考力・判断力・表現力 ・学びに向かう力、人間性等</p>	<p>■公開授業から得た成果と課題の分析 ・効果のある実践の検証と、授業改善へのチャレンジ ■検証すべき視点の「見える化」の継続実施(授業改善シートや付箋の活用) ■Basicガイドブックに基づいた授業の実践 ・教員担当センター指導主事を招聘した、III 類型対象研修会の開催</p>	<p>B ○指導案様式に「主体的に対話的な深い学びの視点での授業改善シート」の視点記入欄を設けて、シートの活用の徹底をすすめ活用率100%となった。 ○検証すべき視点の「見える化」として、授業後の「まとめシート」の作成に取り組んでいるが、まだ、年次研者のみで取組となっている。 ○学習評価に関する研修会(8/2)を行い理解を進めることができた。 ○Basicガイドブック研修7/10実施。しかし指導にあまり反映させていないとアンケートに答えた教員が多い。</p>	<p>B ○管理職は可能な限り研究協議に参加し指導助言を行う。 ○授業改善を進めるために、全教員が12月中に「公開授業後まとめシート」へ記入し、改善点の見える化を図る。 ○授業改善シートの改善・充実 ・現行版に具体例を追加する。 ・III 類型バージョンを作成する。 ○継続してIII 類型を開き、授業改善の協議を実施する。 ・クラスに応じた生徒への配慮事項の共通理解を図り、実施する。 ○授業改善案を作成し授業を行う。</p>	<p>B ○全ての教員が公開授業と研究協議に、「主体的に対話的な深い学びの視点での授業改善シート」「公開授業後まとめシート」を使用し、各自の授業改善の成果と課題を発表して学び合いを進め更なる授業改善へとつなげている。 ●研究協議内容や協議方法については一層の充実が課題である。 ○III 類型の授業改善にはBasicガイドブックの活用やユニバーサルデザインの授業づくりの視点が定着しつつあり、教科や学年を超えて、生徒の実態把握、授業づくり、指導技術の学び合いが日常に行われ始めた。 ●学習評価に関する取組については、評価規準・基準の設定や実態に応じた評価の在り方に検討が必要である。 *アンケート(3)「授業が分かるか」「そう思う」生徒:76.5%(H30:68.4%) *アンケート(3)「児童生徒の力を育てる授業ができていますか」【肯定的回答】教職員:89.5% *アンケート(5)「深い学びにつながる授業ができていますか」【肯定的回答】教職員:85.5%</p>	<p>A ・授業がよくわかる生徒76.5%、力を育てる授業に肯定的回答教員9割、これは驚異的な数字である。自信と誇りの表れではないか。</p>	<p>■「主体的・対話的・深い学びの推進」は、教育課程の改善に含めて継続する。 新たに「自立活動の指導の充実」を柱とする。 教科学習を後ろ支えする自立活動の指導内容の充実を図る。 ①自立活動の指導内容を明らかにし、より実態に即した指導、支援を行う。 ②自立活動と教科の指導内容について必要な整理を行う。</p>
<p>キャリア教育の充実</p>	<p>文化・芸術・スポーツの振興 ○文化・芸術の推進 ○総文祭に向け、文化・芸術に関連した学習及び発表により社会参加の一層の推進を図る。 ○体育・スポーツの振興 ○体育や部活動に障害者スポーツの競技種目を取り入れる関係機関と連携して一層の充実を図る。 ○障害の重い児童生徒(I 類型)の体育の授業充実を図り、自立活動の内容を整理する。</p>	<p>○文化・芸術・スポーツに関連した行事・校外学習の実施 ○全児童生徒一人一品以上の作品の出品 ○障害者スポーツ大会への初参加生徒3名、全参加者10名以上 ○交流及び共同学習、行事等でのポッチャの実施回数5回以上 ○体育、美術、音楽等の芸術・スポーツについての実践を蓄積する。(各教科について、学習グループから1事例以上)</p>	<p>■出品率の向上 ・作品展を意識した年間計画の作成 ・スキル(基礎・基本)の習得 ・児童生徒の強みを生かした作品制作 ・総文祭大会におけるパフォーマンスの実施(学校行事としてかわる) ■スポーツ大会等への参加者の増加 ・逐次、大会参加要項等を廊下等に掲示し、参加意欲の喚起 ・スポーツ大会の活躍を掲示 ■児童生徒の社会参加を目的としたバラスポーツの普及啓発 ・学校間交流において、ポッチャ等バラスポーツの計画 ■障害の重い児童生徒の体育やスポーツの検討 ・児童生徒の主体的な動きを引き出す活動の研究 ・学習グループの検討</p>	<p>B ○作品の出品率52.8%(28名/53名:7月現在) ○スポーツ大会への参加(7名(申込9名)初参加3名(申込5名)。成果が出ているにもかかわらず校内の盛り上がり低い。 ○交流及び共同学習、行事等でのポッチャの実施回数5回。交流:市商、戸波中、春野西小。居住地:舟入小、高岡第一小。 ○体育の授業では学習グループを検討し、2学期より課題別縦割りグループでの授業を実施する。</p>	<p>A ○具体的な参加計画をすすめる。 ・スピリットアート、肢体不自由児者の写真展に出展予定者24名。 ○体育係は校内の掲示板等を活用してPRする。 ・各種大会の様子を正面玄関に掲示する、全校集会等で伝達表彰をするなどして、参加意欲を高める。 ○レポッチャ大会に協力する。 ○スポーツ大会参加推進の視点で振り返りを行い、次年度の体育年間計画に反映する。 ○障害の重い児童生徒のグループ体育を授業公開する。研究協議により児童生徒の主体的な動きを引き出す活動の検討を実施し、実践集録に入れる。 ○自立活動部を中心に「障害の重い児童生徒の体育の授業と自立活動の内容」について整理して、校内に示す。</p>	<p>A ○日々の学習の成果として出品や大会参加を計画したこと、ほぼ全ての児童生徒の出品や大会参加ができた。出品や参加の経験に加えて受賞の経験は児童生徒の自信につながり、日々の学習意欲の向上や参加意欲の高まりにつながった。また、児童生徒の変化や成長は、保護者の協力意識を高め、積極的な出品や参加の増加へと好循環をもたらしている。 ○スポーツでは、大会への初参加者が増えている。 ●継続した参加はまだ一部の児童生徒に限られ、校内の機運の向上や障害の重い子どもたちの参加機会の拡大が課題である。 ○障害の重い児童生徒の体育の授業と自立活動の内容の整理については、体育の授業実践をとおして内容表の作成を進めている。 *作品の出品率98.1%(52名/53名) *スポーツ大会への参加延べ25名(初参加11名) *アンケート(6)「社会参加を意識して文化芸術活動に取り組んだか」【肯定的回答】教職員:92.1% *アンケート(7)「社会参加を意識してスポーツ活動に取り組んだか」【肯定的回答】教職員:80.3%</p>	<p>A ・作品の出品等積極的な取組で、共生社会の実現に向け先進的な取組である。 ・スポーツ大会は、本人の楽しみで、励みになっている。年々子どもが成長しており感謝している。 ・保護者としても出たいと思える機会(大会)があるのは嬉しい。</p>	<p>学校卒業後の生涯学習につなげる視点を持った文化・芸術、スポーツ活動の振興を図る。 ①卒業後の豊かな生活を目指し、在学中から、卒業後につながる活動を見つけるとともに社会参加の機会の充実を図る。 ②文化・芸術、スポーツ活動に関して授業等において計画的に取り組むとともに、児童生徒の意欲や主体性を向上させるため、校内での情報共有を行い、機運づくりを行う。</p>
<p>働き方改革</p>	<p>○時間と労力の無駄を省き、子どもに向き合う時間を確保する。 ○校務分掌等の整理や業務内容の精選・見直しにより、会議の縮減と時間の短縮を図る。 ○教職員のメンタルヘルスの意識の向上を図り、明るい職場づくりを実現する。 ○寄宿舎と学校の一体感を重視し風通しの良い職場づくりを実現する。</p>	<p>○教員の教材研究の時間確保満足度(学校評価アンケートでの「そう思う」「ややそう思う」回答)70%以上 ○学部の開催、月3回以下 ○朝のラジオ体操の効果的な活用など、心と体を意識した活動を計画的に位置付ける。 ○寄宿舎と学校では、卒業生のアフターケアや学校行事等で連携して取り組んでいる。さらに授業参観や寄宿舎自治会活動の協力など日常的関りを増やす。</p>	<p>■教員の教材研究の時間確保 ・教員の満足度70%以上をめざす ・会議開催の工夫、時間短縮、削減(取組を数値化し「見える化」を図る) ■休憩時間の確保 ■ノー残業デーの継続実施 ■ラジオ体操週間の実施(運動と笑顔を増やす) ■産業医やSCを活用した研修会の実施 ■全員の寄宿舎指導員が年に1回以上公開授業を参観する。 ■トイレ、入浴、食事など、学校と寄宿舎で要請があれば協力し合う。 ■状況に応じて寮務主任が主事会へ参加する。</p>	<p>C ○調査は12月実施予定。 ○学部会等の回数減(4→3・2)及び時間短縮(学部会60分→50分)(委員会60分→30分)を行い、休憩時間や教材研究等の時間の確保に努めている。 ○ラジオ体操の取組が不十分だった。 ○ヨガ教室(8/28:7名) ○寄宿舎と学校との日常的な連携の増加(トイレ介助、授業参観(5名/14名)、夏まつり参加)</p>	<p>B ○会議等の工夫改善の継続 ○木曜日を「会議を入れない日」→「教材研究日」とし、主旨の共有を図る。 ○ラジオ体操を活用した健康づくりの取組の実施。 ・衛生委員会の活動を活発化させる。 ・ラジオ体操週間を設定する。(10月7日～11日)</p>	<p>B ○会議開始終了時刻の徹底、グループウェアを活用した周知、重複する会議内容の整理等による放課後の時間確保と、担当授業時間数の見直しを行い、教材研究の時間の確保を進めている。 ●教材研究の時間確保は継続課題である。 ○非常勤職員を雇用し、教職員が行っていた校内清掃を削減し業務量を一部軽減した。 ○12月より毎月第2週はラジオ体操週間として計画的に実施し、参加者が増加した。 ●ラジオ体操の全体化をめざした工夫を継続する。 ○寄宿舎指導員と教員との日常的な連携を目的に業務の協力体制をつくり連携の機会が増加した。(学校でのトイレ介助、授業参観(100%)、教員の夏まつり、クリスマス会への参加) *アンケート(10)「教材研究の時間確保」【肯定的回答】教職員:55.3%(H30:55.5%)</p>	<p>B ・これだけ熱心にきめ細かく取り組むと、先生方のゆとりが制約される。時間配分を考え、どれだけ指導をするのか、やりすぎると先生たちの健康を害する。この両立は難しい。 ・ワークライフバランスを考え、より意識をもって取り組んでいただくことが大事。</p>	<p>子どもに向き合う時間、自分自身を高める時間の確保と、一人一人の力が生かせる職場づくりを行う。 ①効果的、効率的で計画的な業務により、見直しをもった仕事の仕方につなげるなど教職員の働き方に関する意識改革を行う。 ②本校・分校で共同・協働してできる業務を検討し、各校の教育活動の交流による質の向上を図るとともに、業務の効率化を図る。</p>